

博報堂生活総合研究所「未来系地域生活」調査

7割以上の生活者が 「現在住んでいる地域エリアに満足」 地域への満足度を構成する「8つの欲」と5つの地域生活モデル

博報堂生活総合研究所は、「地域」を生活者視点で捉えなおすことにより、これからの生活者の暮らしがどのように変化するかについての研究を行っています。

この度2006年6月、11月と2007年1月の3回に渡り、全国の生活者を対象にインターネットで「地域生活」についての調査を実施しました。その結果、生活者の約7割が現在住んでいる地域エリアに満足していることなどが分かりました。また生活者の地域エリアに対する満足内容を分析した結果、地域に対する満足度は8つの欲から構成されていることを発見し、これを「地域8欲」と名づけ、これを元に47都道府県の分類や今後生活者が住みたいと思う地域生活モデルなどを分析いたしましたので、ご紹介させていただきます。

調査結果トピックス

- 現在住んでいる地域エリアに満足している生活者は全体の約7割以上。
- 現在住んでいる地域に生まれてからずっと住んでいる生活者は3割弱。第一希望として引っ越してきた生活者は転居経験者のうちの2割弱。
- 現在住んでいる地域エリアに永住すると答えた生活者は約半数。転居経験者の転居後の平均居住年数は、男女共に約10年。年代を重ねるごとに地域エリアにとどまる傾向がある。
- 生活者が地域生活に対して持つ欲求は「便利」、「外見」、「個性」、「親交」、「安心」、「静閑」、「自然」と「安価」の8つ＝「地域8欲」。
- 8欲に基づき47都道府県を分析したところ、「便利な都市型」、「自然共生ロハス型」、「お値打ち型」、「お値打ち&ロハス型」と「ほどよくバランス型」の5つの地域生活モデルが抽出された。
- 生活者の一番住みたい地域生活モデルは「ほどよくバランス型」がトップに。
- 年代別に見ると「便利な都市型」、「自然共生ロハス型」を好むのは団塊世代を含む50代。「お値打ち&ロハス型」を好むのは20代と60代。

本件に関するお問い合わせ先

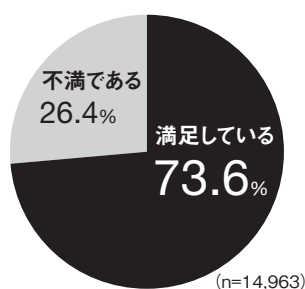
総合的なお問い合わせ…………… 博報堂 広報室 宮川・藤本 TEL: 03-5446-6161
詳細な調査結果のお問い合わせ…………… 博報堂生活総合研究所 吉川・原田 TEL: 03-3233-6450

DATA 編

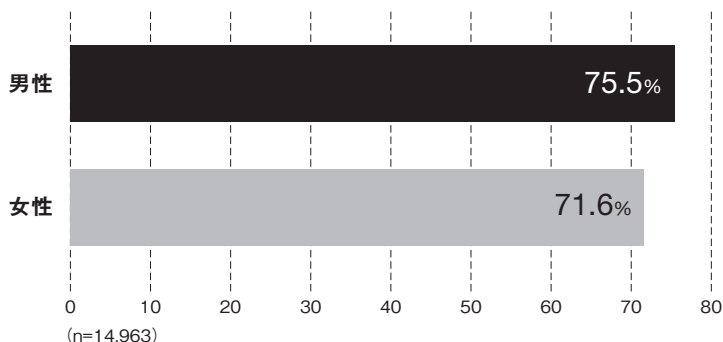
現在住んでいる地域エリアに満足している生活者は全体の約7割以上。(第2回定量調査結果より)

「現在住んでいる地域エリアに満足していますか」と聞いたところ、「満足している」と答えた生活者は73.6%と、7割以上の生活者が満足しているという結果がでました。また、男女別に比較しても、男性75.5%、女性71.6%と男女差はほとんどなく、年代別でも20代から60代まで、7割台をキープしていました。多くの生活者が自分の居住地域に満足しているようです。

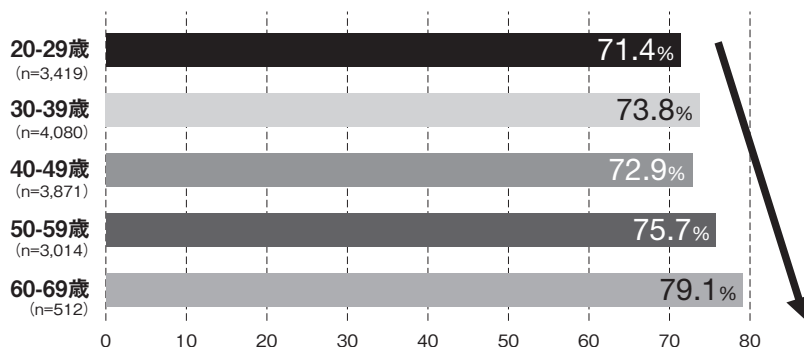
地域エリアの満足度



男女別の地域エリアの満足度



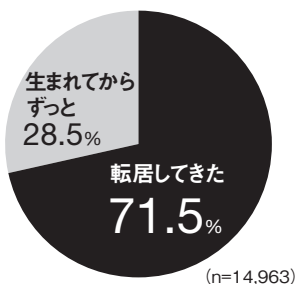
年代別の地域エリアの満足度



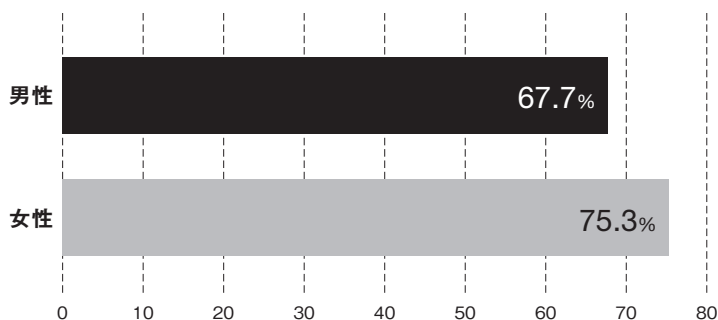
現在住んでいる地域に生まれてからずっと住んでいる生活者は3割弱。第1希望の地として引越してきた生活者は転居経験者のうちの2割弱。(第2回定量調査結果より)

「現在住んでいる地域エリアにいつから住み始めていますか」という質問に対して、71.5%の生活者が「移転してきた」と答えました。また、男女別では男性67.7%、女性75.3%と女性の転居移住率が若干高いことが分かりました。女性の場合、結婚などが影響しているのでしょうか。さらに、「あなたが現在お住まいの地域エリアは、あなた(あるいはご家族)が積極的に選択した地域エリアでしょうか?」という質問に対しては、「第1候補」と答えた生活者は18.0%で、「転勤などの事情でこのエリアにせざるを得なかった」(46.5%)と「候補の1つ」(35.5%)と比較すると、非常に少ないということが分かりました。また、男女別にみたところ、「第一希望」と答えた男性は14.9%で女性は20.9%と女性の方が若干高いのに対して「事情により」転居した男性は46.8%で女性46.2%とほぼ並びました。

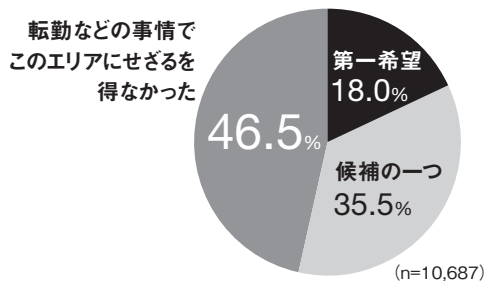
いつから住み始めたか



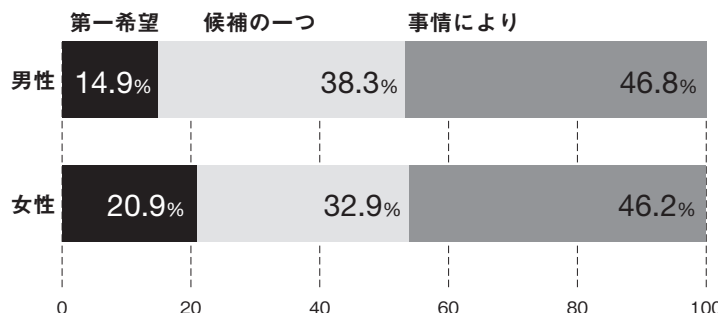
男女別の転居移住率



転居エリア評価



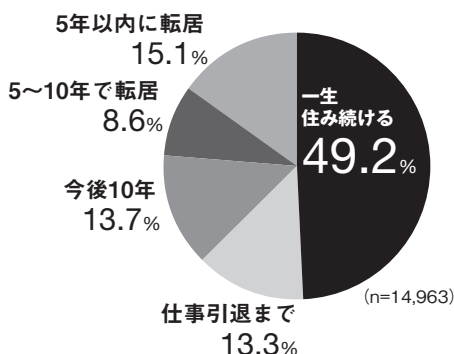
男女別の転居エリア評価



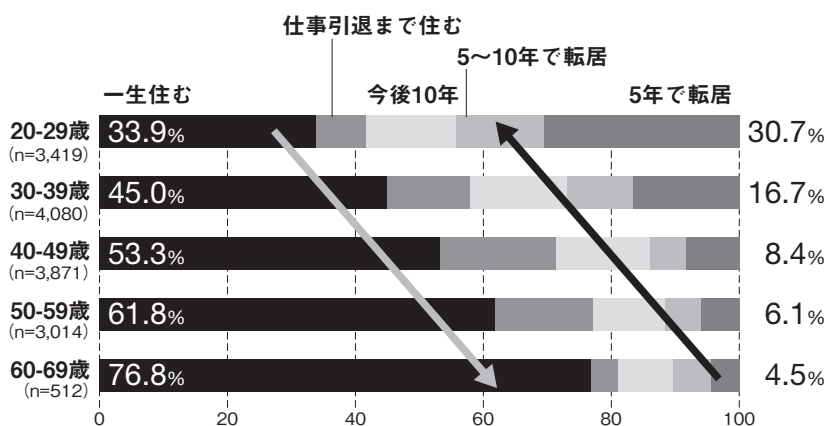
現在住んでいる地域エリアに永住すると答えた生活者は約半数。転居経験者の転居後の平均居住年数は男女ともに約 10 年。年代を重ねるごとに地域エリアに留まる傾向。 (第 2 回定量調査結果より)

一方で、「現在住んでいる地域エリアに今後も住み続けますか」と聞いたところ、49.2%の生活者が「一生住み続ける」と答えました。第一希望で転居してきた人が少ないことに比較して高い結果となっています。住めば都なのでしょうか。また、男女別に比較しても、男性48.1%、女性50.5%とほとんど差がありませんでした。また、年齢別に比較しても20代から60代まで差はあるものの、「一生住み続ける」と答えた生活者は、「5年で転居したい」と答えた生活者より多いことが分かりました。

現在の地域エリアに今後も住み続けるか



年代別の永住意向評価

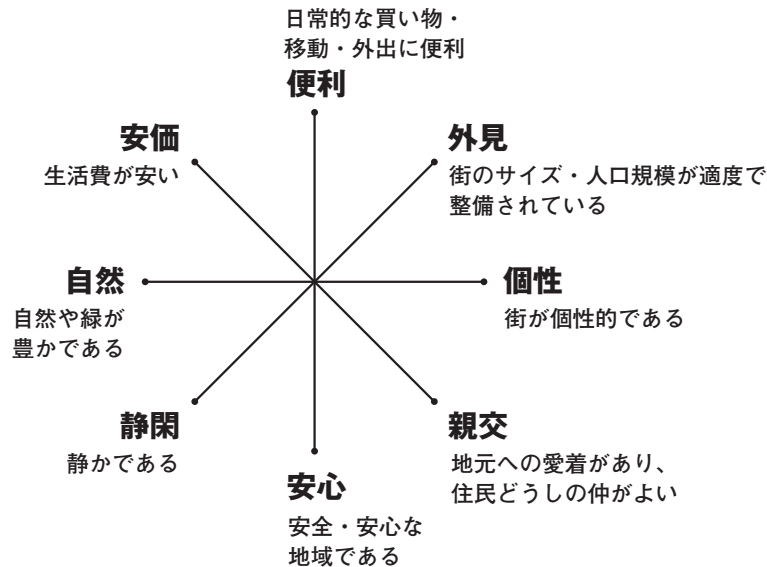


生活者が地域生活に対して持つ欲求は「便利」、「外見」、「個性」、「親交」、「安心」、「静閑」、「自然」と「安価」の8つ＝「地域8欲」

(第1回定量調査結果より)

「現在住んでいる地域エリアに満足している」生活者に1人5個ずつ「その地域エリアに満足している理由」を自由に記述してもらいました。最終的に集まった4,233の自由回答を分類したところ、生活者が地域生活に対して持つ欲求は全部で8つあり、それらを「地域8欲」として定義しました。

【地域8欲】



8欲に基づき47都道府県を分析したところ、「便利な都市型」、「自然共生ロハス型」、「お値打ち型」、「お値打ち & ロハス型」、「ほどよくバランス型」の5つの地域生活モデルが抽出された。

(第2回定量調査結果より)

この「地域8欲」を元に、さらに47都道府県の生活者に対し、自分の住んでいる地域がどの欲を満たしているか聞いたところ、大きく5つの地域生活モデルが浮き上がってきました。順にこの5つをご紹介します。

【5つの地域生活モデル】

「便利な都市型」モデル

代表県：
兵庫県

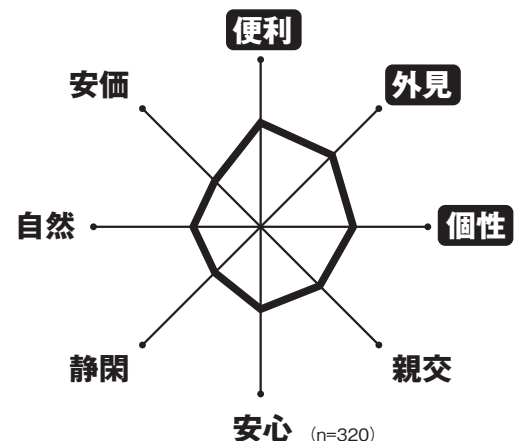
- 「便利」「外見」「個性」の満足度が高い
- 政令指定都市を擁する都府県中心に分布（全11都府県）
- 満足度と転居者率が最上位。永住意向は最下位

該当都道府県：東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、
大阪、京都、兵庫、広島、福岡、沖縄

地域生活の満足度：83.5%

転居者率：80.9%

永住意向：40.7%

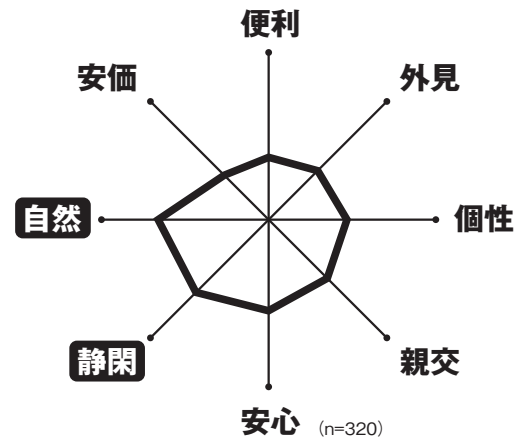


「自然共生ロハス型」モデル

- 「自然」「静閑」の満足度が高い
- 大都市を持たない県中心に分布（全12県）
- やむを得ずの転居率は最上位で満足度は4番目。

該当都道府県：青森、岩手、山形、福島、山梨、静岡、
長野、福井、島根、高知、長崎、鹿児島
地域生活の満足度：67.1%
やむを得ずの転居率：52.8%（転居者ベース）
永住意向：51.7%

代表県：
長野県

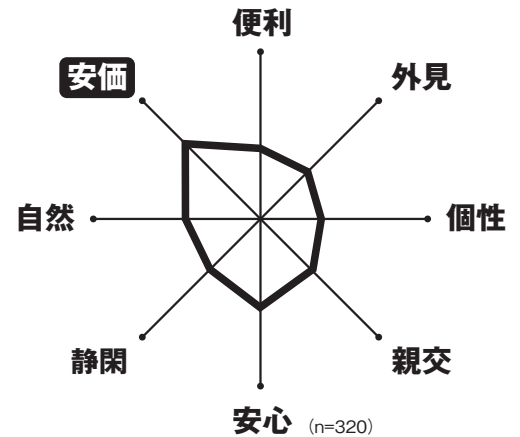


「お値打ち型」モデル

- 「安価」の満足度が高い
- 大都市圏周辺のエリアに分布（全6県）
- 満足度、永住意向とも5モデル中3位。

該当都道府県：茨城、栃木、群馬、岐阜、岡山、徳島
地域生活の満足度：67.1%
永住意向：51.7%

代表県：
群馬県

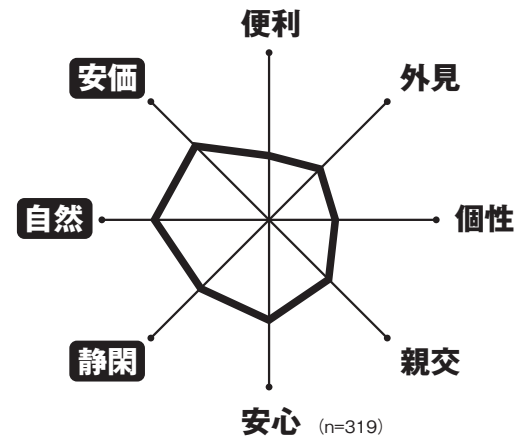


「お値打ち&ロハス型」モデル

- 「自然」「静閑」に加えて「安価」の満足度が高い
- 北から南まで広く分布（全6県）
- 永住意向、第1希望転居率1位だが、満足度は最下位。

該当都道府県：秋田、富山、和歌山、鳥取、山口、宮崎
地域生活の満足度：65.2%
第1希望転居率：19.4%（転居者ベース）
永住意向：56.6%

代表県：
富山県

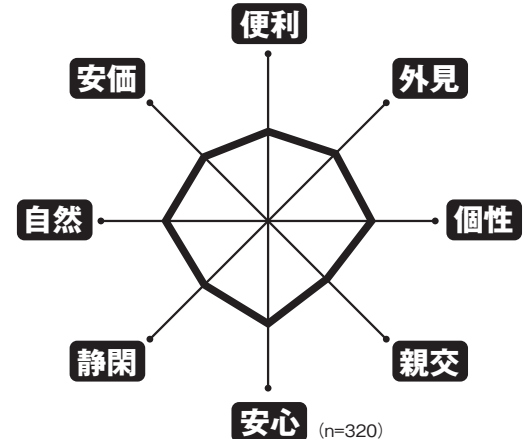


「ほどよくバランス型」モデル

- すべての指標の満足度がそこそ高い
- 北から南まで全国にあまねく分布（全12道県）
- 第1希望で転居してきた人の比率が最下位で、残りは平均的

該当都道府県：北海道、宮城、新潟、石川、三重、
滋賀、奈良、香川、愛媛、佐賀、熊本、大分
地域生活の満足度：76.2%
第1希望転居率：17.1%
永住意向：50.4%

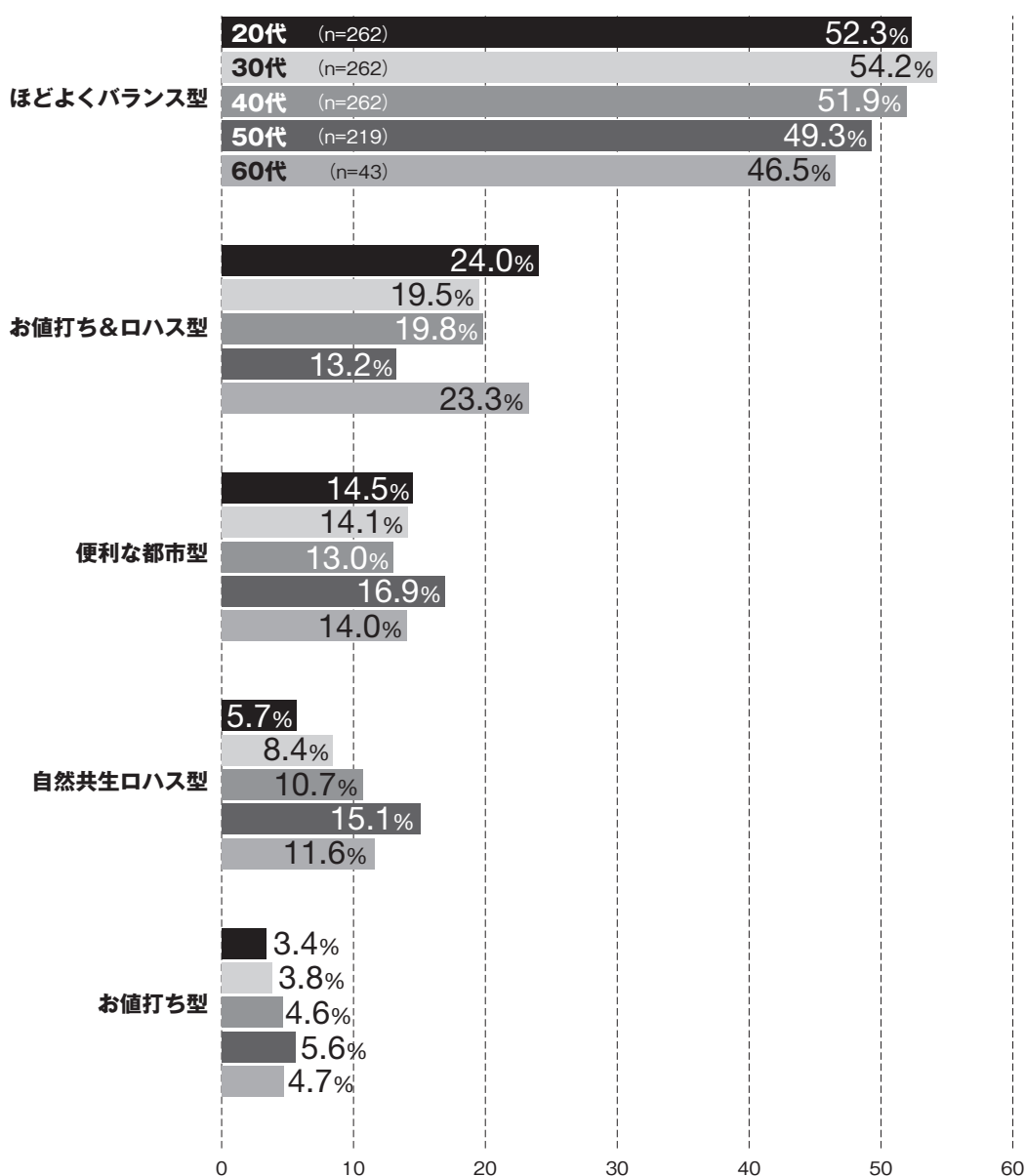
代表県：
石川県



生活者の一番住みたい地域生活モデルは、 「ほどよくバランス型」モデルがトップに。年代別に見ると 「便利な都市型」、「自然共生ロハス型」を好むのは 団塊世代を含む 50 代。「お値打ち & ロハス型」を好むのは 20 代と 60 代。 (第 3 回定量調査結果より)

生活者が一番住みたい地域生活モデルを年代別に聞いた所と、
「ほどよくバランス型」モデルが全ての年代でトップ、各年代の約半数をしめていることが分かりました。一方で、50代は「便利な都市型」、「自然共生ロハス型」が他の年代と比べて割合が高く、20代、60代は「お値打ち & ロハス型」を支持する人が多くなりました。全体的にはどの年代も類似した傾向ではあるものの、年代別に見ると細かな特徴があることが分かります。

一番住みたい地域生活モデル (%)



【47都道府県別 地域生活モデル】

「便利な都市型」モデル [全11都府県]

東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、
大阪、京都、兵庫、広島、福岡、沖縄

「自然共生ロハス型」モデル [全12県]

青森、岩手、山形、福島、山梨、静岡、
長野、福井、島根、高知、長崎、鹿児島

「お値打ち型」モデル [全6県]

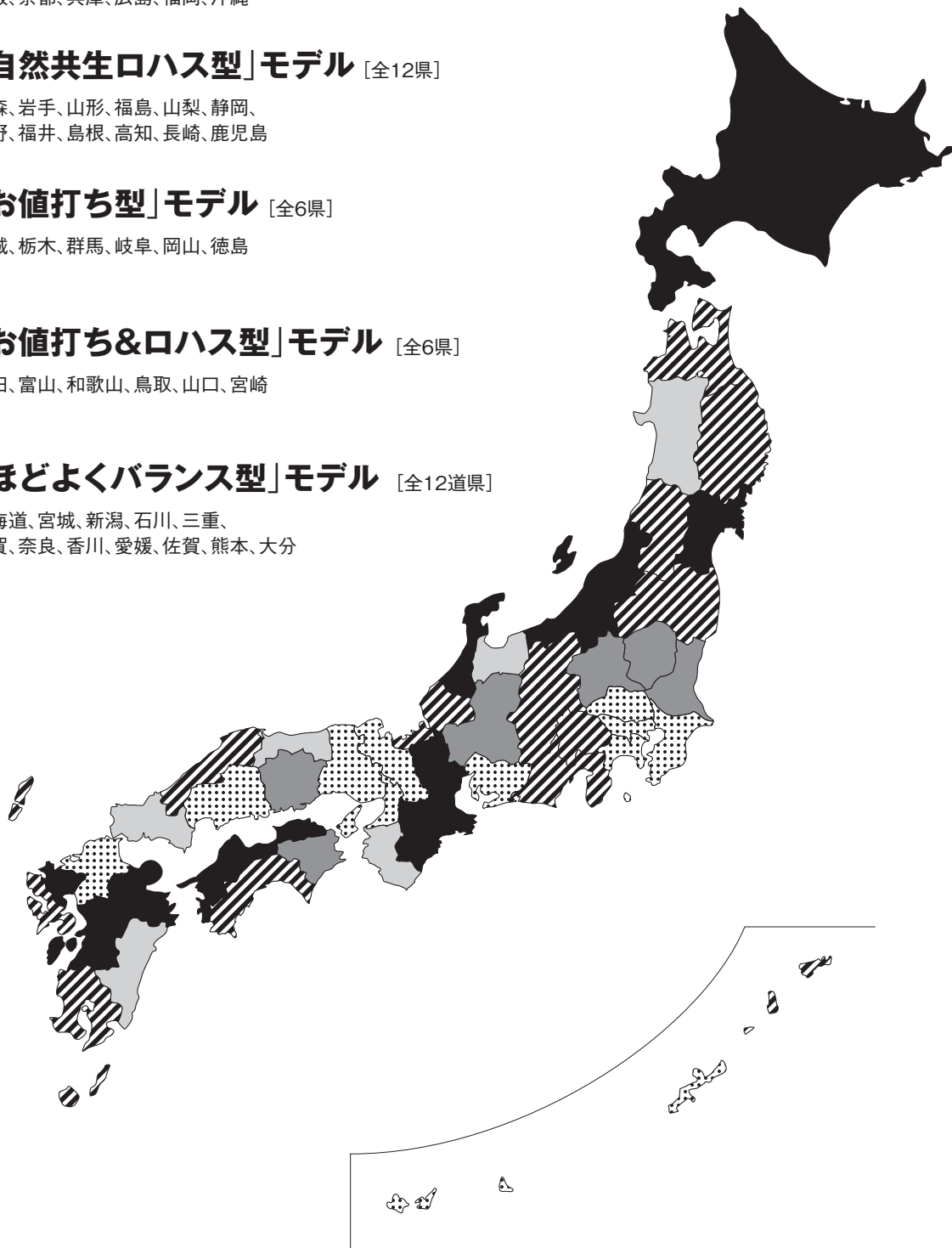
茨城、栃木、群馬、岐阜、岡山、徳島

「お値打ち&ロハス型」モデル [全6県]

秋田、富山、和歌山、鳥取、山口、宮崎

「ほどよくバランス型」モデル [全12道県]

北海道、宮城、新潟、石川、三重、
滋賀、奈良、香川、愛媛、佐賀、熊本、大分



調査概要

第1回定量調査

生活者の「地域評価指標」を把握。「地域8欲」を抽出。

調査地域：全国47都道府県

調査対象：20歳～69歳の男女 世帯主もしくは配偶者

サンプル数：1,048人

対象者割付：北海道・東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の7エリアに分類し、人口分布に基づき割付

調査方法：インターネット調査

調査時期：2006年6月

第2回定量調査

「地域8欲」指標で47都道府県を分類し、「生活圏モデル」を抽出

調査地域：全国47都道府県

調査対象：20歳～69歳の男女 世帯主もしくは配偶者

サンプル数：14,967人（各都道府県300人以上）

調査方法：インターネット調査

調査時期：2006年11月

第3回定量調査

5つの「生活圏モデル」から「未来系地域生活」の方向性を抽出

調査地域：全国47都道府県

調査対象：20歳～69歳の男女 世帯主もしくは配偶者

サンプル数：1,048人

対象者割付：北海道・東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄の7エリアに分類し、人口分布に基づき割付

調査方法：インターネット調査

調査時期：2007年1月
